

(1) 基本的に

臨床の間では、今まで習ったことの無い病気や症状を訴える患者さんにも出会う。鍼灸の良い点は、そういう人でも応急処置や慢性期の養生ができること。狼狽(うろた)えずに、できる範囲で当たり前のことを当たり前にする。

まずは、患者さんから、症状や病の経過を丁寧に聞く。そして、時間を掛けて全身を丁寧に診察し、大きな歪みや古いツボを探す。体全体の大きな歪みは少し遠目に眺めた方が分かりやすいことも多い。

急性症状が出ていたら、体のどの辺りで、最も病が動いているか、どの辺りで邪気が蠢(うごめ)いているか見当を付ける。器質性病変の鑑別をしつかりすることが大切。

慢性期は、水毒、瘀血など腹の邪毒のうち、どれが最も関係しているか見当を付ける。そして、出ている大きな歪みや古いツボと、それらの邪毒との関係に矛盾が無いかわかる。

古い病や打撲などが関係していることもあり、怪我や手術などを中心に昔の病歴を聞く必要もある。また、普段している仕事の姿勢や動作を始め環境面に由来することもある。必要なら、その辺りも聞く。

標準的な現代医学の治療がどうなっているかわかるべたり、鍼灸などの症例を探してたりしてみよう。インターネット、図書館の本や雑誌なども利用して。

仲間で症例報告や症例相談をするグループを作るのもよいし、講習会などで知り合った先生や先輩に質問するのもよい。

(2) ツボの出やすい所

1. 慢性的症状

まずは、古いツボが出やすい所、古い病、打撲、手術に関係するツボが出やすい所。体の大きな歪みに関係する所。腹、脛、首には、古い歪みが出やすい。上腕大腿の陰経側に出ていることもある。

それらと経絡的に関係する所。

それらとの横輪切り相関も見ると。背中など。

症状の出ている所との動作の連動、血行、神経伝達で関連する所も見ると。

心の疲れなどが関係していそうなら、そういう関係のツボが出ていないかわかる。

2. 急性症状

急性症状のツボは、邪気が最も蠢(うごめ)ている所の横輪切り相関と縦切り経絡的相関を中心に探す。横輪切りでは背中側、経絡的相関では手足経絡の手足首首辺りから先に多い。

(3) 手順

まずは、患者さんの辛さが少しでも減らないか、急性症状に関係するツボを運動器系応急処置や内科系応急処置の手順で施術。先急。

辛さが少しでも減らしたら、次からは、慢性期の型の手順で、腹を中心に見つけたツボを順に改善していく。鍼のみで変わりにくいツボが見付かったら、急や灸頭鍼も組み合わせて治療していく。

(4) 伝統医学は病人治療

こうして書いたものを読むと、今まで書いてきたことと殆ど変わりが無いことに気付くだろう。そこが鍼灸など伝統医学的治療の面白い所で、目の前の患者さんのその時の体の状態にピッタリ合ったことができれば、自然に症状は改善していく。

伝統医学は、病名治療ではなく、病人治療。自然則に基づき、目の前の患者さんのその時の状態にピッタリ合ったことができるよう、精進と工夫を積み重ねていこう。

目の前の患者さんのその時の体の状態に合わせていくうちに、今まで使ってきた自然則と矛盾することが出てくるかもしれない。そういう時も目の前の患者さんのその時の状態を優先する。

そういう時こそ、新しい発見のチャンス。その状態を丁寧に観察し、今までの自然則の内容を改善したり、新しい自然則を見付けていく。そういう新しい発見を伝え合う仕組みを作り、どんどん伝え合い、みんなで向上していこう。

要点：

- ① 全身を丁寧に診て、歪みやツボを見付ける
- ② 現代医学治療、鍼灸治療の症例を調べる
- ③ 先ず辛さを減らし、次に腹を整える